

震度と長周期地震動階級

● 気象庁が発表する震度

ある震度が観測されたとき、その周辺で発生する現象や被害等の目安は次のとおりです。

震度とゆれの状況

0  【震度0】 人は揺れを感じない。	1  【震度1】 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。	2  【震度2】 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。	3  【震度3】 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。
4  【震度4】 ● ほとんどの人が驚く。 ● 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ● 座りの悪い置物が、倒れることがある。	6弱  【震度6弱】 ● 立っていることが困難になる。 ● 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ● 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ● 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。		
5弱  【震度5弱】 ● 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ● 棚にある食器類や本が落ちることがある。 ● 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	6強  【震度6強】 ● はわないと動くことができない、飛ばされることもある。 ● 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 ● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。 ● 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。		
5強  【震度5強】 ● 物につかまらないうち歩くことが難しい。 ● 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。 ● 固定していない家具が倒れることがある。 ● 補強されていないブロック塀が崩れることがある。	7  【震度7】 ● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。 ● 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ● 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。		

(気象庁ホームページより抜粋)

詳しくは気象庁ホームページを参照してください。

震度について <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/index.html>

● 気象庁の長周期地震動に関する情報

気象庁は、東日本大震災の教訓から、地震後の高層ビル等における防災対応等の支援のため震度では把握が困難な長周期地震動による高層ビル内等における揺れの大きさを知らせる「長周期地震動に関する観測情報」を発表しています。令和5年2月1日からは、緊急地震速報の発表基準に長周期地震動階級を加えました。

・長周期地震動階級関連解説表

階級1～4の4段階となっています。高層ビルにおける各階級ごとの人の体感や行動、室内の状況は、次のとおりです。

長周期地震動階級	人の体感・行動	室内の状況など
階級1 	室内にいたほとんどの人が揺れを感じる。驚く人もいる。	ブラインドなど吊り下げものが大きく揺れる。
階級2 	- 室内で大きな揺れを感じ、物につかまりたいと感じる。 - 物につかまらなと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	- キャスター付き什器^{じゅうき}がわずかに動く。 - 棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。
階級3 	立っていることが困難になる。	- キャスター付き什器が大きく動く。 - 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。 - 間仕切り壁などにひび割れ・亀裂が入ることがある。
階級4 	- 立っていることができず、はわないと動くことができない。 - 揺れにほんろうされる。	- キャスター付き什器が大きく動き、転倒するものがある。 - 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。 - 間仕切り壁などにひび割れ・亀裂が多くなる。

・長周期地震動に関する観測情報のHP

地震発生後、概ね10分程度で気象庁HPに掲載されます。震度情報と併せて、長周期地震動階級を示すことで、高層ビル施設管理者、防災関係機関及び高層階居住者等に情報提供を行い、注意喚起を促すことを目的として掲載されます。



詳しくは気象庁ホームページを参照してください。

長周期地震動について

<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/choshuki/index.html>